

ANIMAL CENTER NEWS

No . 13

目次

◆SPF 項目モニタリング結果と経過報告

◆動物実験センター4室の用途の変更と名称の変更

◆センター内におけるチャタテムシの発生と駆除に関して

◆第53回実験動物技術者協会総会 in 松山が開催されました

◆中四国動物実験施設連絡協議会に参加しました



(写真1) ミコアイサ (パンダガモ)

◆SPF 項目モニタリング結果と経過報告

2019 年 12 月に動物実験センターの各飼育室のモニターマウスを実験動物中央研究所にて検査しました。検査の結果、347 室より消化管内原虫（オクトミタス）、206 室より消化管内原虫（オクトミタス）、アメーバ、221 室、211 室、125 室よりラット盲腸蟻虫（*Syphacia muris*）が検出されました。モニタリング結果は動物実験部門のホームページにて閲覧いただけます。

（URL：<https://www.adres.ehime-u.ac.jp/bumon/04/bumon/14/result.html>）

347 室は 348 室と利用講座が一部重複しており、245 室への動物の移動が行われていたため、245 室の動物も実験動物中央研究所にて検査をしたところ、消化管内原虫（オクトミタス）が検出されました。348 室についても今後実験動物中央研究所にて検査をする予定です。

これらの検査結果より、347 室は 2020 年 1 月に 127 室に全動物を移動しました。206 室は新規の動物搬入を停止し、1 月 21 日に空室になりました。245 室は隔離し、処置室等の使用を制限しました。空室になった飼育室より、アルコール、弱酸性水、ヨードを用いて清掃を行い、モニターマウスにて陰性を確認したのちに利用可能とします。221 室、211 室、125 室はラット盲腸蟻虫に有効なピランテルパモ酸塩を飼料に混ぜて投与、イベルメクチンの噴霧作業の併用により駆虫を行う予定です。

上記のように、動物の移動によって感染が拡大する恐れがありますので、飼育室間での移動は事後報告にせず、移動前に動物実験部門の職員にご相談くださいますよう、ご協力をお願いいたします。

◆動物実験センター4室の用途の変更と名称の変更

二光子顕微鏡の他大学への搬出とエックス線照射装置の更新に伴い、センター2階の4室について、用途の変更と名称の変更が専門委員会で承認されました。

現在、二光子顕微鏡解析室3室の内2室は、臨時的行動解析として使っています。名称は多目的解析室です。残りの1室は、エックス線照射装置更新に伴い古い照射装置を移設しています。名称はエックス線照射室です。

二光子顕微鏡用飼育室は、そのまま多目的解析用飼育室として使用します。

◆センター内におけるチャタテムシの発生と駆除に関して

令和元年9月から11月にかけて、センター内2飼育室においてチャタテムシの大量発生が、3飼育室において少量発生が認められました。ラックの排気チャンバー部の清掃を入念に行い、スチームクリーナー・アルコールによるラック・床の清掃を定期的に行うことで、大幅な匹数の減少が認められました。今後も定期的モニタリングを継続しながら、より清潔な飼育室を維持管理し、皆様に快適な環境を提供できるよう尽力して参りますので、ご理解の程よろしくお願い致します。

◆第 53 回日本実験動物技術者協会総会 in 松山

10月24日～10月26日に松山市総合コミュニティセンターにて第53回実験動物技術者協会総会 in 松山が開催されました。<http://www.convention-w.jp/jaeat2019/index.html>

700名近くの方にご参加いただき、大盛況の中、大会を終えることができました。

動物実験センターをご利用の皆様には、大会期間中、ご不便をお掛けしたと存じます。この度は、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。



(写真 2) 正面玄関

◆第 5 回中四国動物実験施設連絡協議会に参加しました

2019年11月26日に徳島大学にて開催された「第5回中四国動物実験施設連絡協議会」に参加しました。今回は「動物実験施設における防災・災害対策」をテーマに各施設の問題点や対策などを議論しました。他施設の災害対策は当施設でも参考となる点が多かったため、今後、利用者の方々が有事の際にも安心してご利用いただけるように、更なる対策をしていこうと思います。